
ネクロマンサー

アジマス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネクロマンサー

【Nコード】

N9455E

【作者名】

アジマス

【あらすじ】

街が化け物だらけに？てか俺のバイク取りにいかな…あー…面倒臭え…あー！面倒臭え！こんなにしやがった奴は誰じゃい！きたんきたんのボッコボコにしたえやる…噛んだじゃねえか畜生めい！

序章…寝坊助な俺

いつからこんな事になったんだろう…

俺は体育倉庫の中で煙草を吹かしている

外からは壁を叩いたり、扉に体当たりする音が聞こえた
俺はボールを担いで跳び箱に登った

12月24日 PM3時

草薙慶一、とある工業高校の3年

成績悪し

ビッグスクーターを改造した巨大な流線型のバイクを乗り、学校へ
向かった

(あゝあ…遅刻かよ…)

遅刻どころかもう学校は終わる

しかしそれなのにバイクに乗り学校へ向かっている
意外と真面目なのかも知れない

慶一はふと思う

国道なのに何故車が一台も走ってないのかと

そして人が歩いてない所か血痕があちこちらにある

左のハンドルを捻り、引っ張ると一本の刀が前方から飛び出して来
るそれを引き抜くとバイクを静止させた

とりあえずバイクは置いて学校へ続く道へと足に向けた

「…なんだコレ…」

短い髪の毛を掻きむしり、状況を察する
しかし生徒の死体があちこちに転がっている惨状など、理解出来る

訳がなく

慶一は立ち尽くすのみだった

”もっと武器を持ってくればよかった”

慶一がそう感じる事になるのは後の事である

刀はどこかに落とした

回りは死んだ筈の生徒達だらけだ

今あるのはボール一本

「きやがった！」

ドアが吹っ飛ばされ、中に死体が入り込んでくる隣の部室棟の屋根に飛び乗り走る

そして向こうの校舎にあった窓を割り中に侵入する

「はあ：おつかねえな：」

そう呟きボールを担ぐ

1 m位あるボールだ、結構な重量がある

とりあえず今は必要ないから担いでのんびり歩いて行く

階段を登り曲がる所で誰かにぶつかる

「あいだ！」

おっさんか！

そうツツコミを入れたくなる声を発した女を見た

……確かクォーターの三嶋秋ちゃんだ

「あれ？慶一君だ、逃げた方がいいよ」

間延びした声でそう言われた

秋の後ろを見ると牛と人の体を持つ巨漢、2 m位もあるが

デカイ鉄パイプを持って音を立てて走って来てる

「……逃げっぞ！」

秋を先に走らせ慶一はボールを構えた

階段の手摺りを使って高く跳躍し、ミノタウルの首に叩き込んだ

「……………」

「…ブモ」

ミノタウルの拳が直撃して慶一は吹っ飛ぶ
天井に当たり床に叩き付けられた

「ぐえふ！」

このぐえふ！で済む俺もすごいが一つ確信した

「勝てないな、こりゃ」

直ぐさま振り返りダッシュで逃げる

ミノタウルスは足はそんなに速くはない

とりあえずちんたら走っていた秋を抱え上げ、三階に逃げた

「はあ…はあ……つ、疲れた……」

息を切らしながらそう言う

本気で疲れた

汗ダクダクの息ゼイゼイって奴だ

「お疲れ様〜慶一君」

お疲れ様じゃねえよこのアマ

「…なんで街がこんな状況に？」

誰のせいだと思ってると言いたい所だが仕方ないからいきさつを聞いて置こう

「えっと…あれは今日の朝でしたね…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9455e/>

ネクロマンサー

2010年10月10日07時51分発行